

令和元年度第4回「知事と一緒に生き生きトーク」発言要旨

- 1 テーマ：女性の視点から見た中山間地域の魅力と課題
- 2 日時：令和元年10月11日（金）13：30～
- 3 場所：新見市役所南庁舎3階3A（新見市新見310番地3）
- 4 参加者：地域おこし協力隊やIターンで移住された方など、中山間地域で積極的な活動を行っている女性：8名

5 知事挨拶

もともと地元のご出身、あるいはご縁があつて岡山県の中山間地域に来られた皆様から、日々の生活や活動の中で感じられたもっと伝えるべき魅力や、改善した方がよいと思われる点などお聞きしたい。

6 発言内容等

【自己紹介・中山間地域で行っている活動について】

- ・子どもたちの声に応えて、ダンススクールを主宰している。高梁市や真庭市のダンスチームとの交流や、子どもたちとのダンスを通じて、市のPRを行っている。
- ・たまたま出会った紙すきに魅了され、その伝統文化にのめり込んでいる。紙すきを通して、子どもたちに人の豊かさや価値観を伝えられたらとの思いで活動している。
- ・生まれ育った地元の観光協会で、日帰りバスツアーの開催や予約型観光タクシーの助成事業など、母親業をしながら仕事を頑張っている。
- ・ぶどう農家になるべく、主人と2人で移住してきた。ぶどう栽培の傍ら、就農相談会などで相談にのったり、経験してきたことをお話させてもらったりしている。
- ・ネパール人の主人とインドに住んでいたが、子どもたちの将来のために移住を決意した。フードトラックでスパイスカレーを販売している。
- ・高梁紅茶を知ったのをきっかけに、地域おこし協力隊として東京から移住してきた。日本茶インストラクターの資格を活かし、お茶屋さんをオープンした。
- ・主人のぶどう農家になりたいという想いをきっかけに、家族で大阪から移住した。私は、真庭市で初めてのUターン地域おこし協力隊として、廃校の利活用で美容室をオープンした。
- ・平日は本業の仕事をしているが、空き家となったかつての商店を改修し、子どもたちの拠点として、土日に子育て支援のボランティアを行っている。

【活動の中で見つけた中山間地域の魅力】

- ・ダンスインストラクターとして、都市部ではなく、敢えてダンスに触れる機会の少ない中山間地域に、意外なチャンスが転がっている。そこで出会った子どもたちの力は、大人が動かされるほどすばらしいもので、新見市の子どもたちが活躍し、一緒に新見市の自慢をしていきたい。
- ・短冊が和紙でできている風鈴を100個吊るしたイベントで、都市部なら苦情があるかもしれないが、ここでは自然の音と相まって心地よい。地域の方も、若い人が本気でやりたいと言うと、手を貸してくれる。
- ・自然の中で育つ特産品も美味しいし、普段食べている野菜やお米もすごく美味しい。
- ・地域のコミュニティの繋がりなど、子育てがしやすく、とにかく人が温かい。
- ・ぶどうで就農するための移住先を決める上で、阿新のピオーネというブランド力は魅力。圧倒的な出荷量とその品質の良さで、都市部で「阿新」の名が知られている。
- ・吹屋の星空とか、動物たちの足跡とか、自然と共存して、生かされているというのを自分の子どもたちに見せられるのはすごく良い魅力だ。
- ・備中神楽や渡り拍子などの伝統芸能が、みんな歌って踊れるなど、とても身近に感じられる。
- ・お店をオープンする上で、東京では考えられないくらい広いスペースを無償で借りられたり、都会では絶対できないことをやらせてもらっている。
- ・大阪にいたときに、土の上や草むらを歩けない子や、虫に触れない子を見て、例えば災害が起こった時などを想像し、危機感を覚えた。生きる力の強い子を育てるためには、田舎がいいと思った。
- ・子どもの居場所をつくる目的で拠点を作ったが、改修前のかつての商店に来ていた高齢者が集まるようになり、子どもたちの保護者も来るようになり、いろいろな人が集まるようになったことで、子どもたちが地域活性の力になっていることに気づかされた。

【中山間地域の課題や解決のための提言】

- ・「現状維持は衰退する」という言葉が示すように、現状維持をしている市内イベントでは来場者が減ってきている印象を受ける。若い世代が動こうとしたときには、大人はもっとフットワーク軽く対応すべきだ。
- ・子育て世代の親にとって、夜間を問わず子どもを診てくれる病院が近くにはないのは、やはり不安である。
- ・大手チェーンのお店がないことを不満に思う人もいるが、「ここにしか

い」 という強みのある地域を目指していかなければいけないと思う。

- ・ 1、2 時間に一本しかない鉄道状況の中で、市境を越えたバス路線を充実させることは、観光面だけでなく、災害などの有事の際にも役立つと思う。

- ・ 田舎暮らしは良い事ばかりではなく、煩わしいこともある。行政は移住促進に力を入れているが、受け入れる地域側も、変化を恐れず、合理化できるところは合理化していかなければならない。

- ・ 過疎問題に関して、地域の方は諦めてしまっている部分もあるので、外から入ってきた私たちが敢えて憎まれ役になって、地域の意識を変えていくというの求められているように感じる。

- ・ 認知症予防のためにも、高齢者の方々へ訪問美容を行いたい。法律などの規制がもっと緩和されて、対応しやすくなればと思う。

7 知事まとめ

- ・ ワカモノ、ヨソモノである皆さんが、地域の良いところを残しながらも、変えるべきところをいかに変えていくか、地域をのせていくかが重要となる。

- ・ 皆さんが居心地よく、友達も呼びたくなる居場所を作り、次の移住希望者にも自信をもって勧められる地域を作ることが、より地域を住みやすくすることに繋がっていくと思う。